

会長就任のご挨拶

日本病院薬剤師会会長
武田 泰生 Yasuo TAKEDA



この度、令和8年度日本病院薬剤師会（以下、日病薬）通常総会において会長を拝命致しました武田泰生でございます。身に余る光栄とともに、その責任の重さを改めて痛感しております。これまでご支援くださった会員の皆様、関係各位に心より感謝申し上げます。

病院薬剤師を取り巻く環境は、医療の高度化、地域包括ケアの進展、医療DXの加速など、かつてない変化の時代を迎えています。こうした変化のなかで、私たちが果たすべき使命は「医療の質の向上への貢献」であり、そのために日病薬は今後10年を見据え、3つの柱「資質の向上」、「職能の拡大」、「薬剤師の充足」をバリューとして掲げ、具体的な取り組みを進めて参ります。

第一の柱、資質の向上については、昨今の創薬モダリティの多様化や薬物治療管理の高度化に対応するため、専門薬剤師制度の改革と卒後臨床研修の創設を進めます。生涯研修のさらなる充実を図り、総合的臨床能力を備えた薬剤師の育成を推進します。また、職能向上のためのキャリア形成研修を新設し、次世代を担う人材が自らのキャリアパスを描き薬剤師としての職能を磨き続けられる環境を整えます。これらの取り組みを通じて、薬剤師が医療チームのなかで確固たる専門職として信頼される存在となることを目指します。

第二の柱は職能の拡大です。医療DXへの対応を加速し、調剤・製剤・薬品管理・情報関連業務の効率化を進めます。タスク・シフティング/シェアリングを推進し、薬剤師業務の整理と補助者の活用を進めることで、より専門的な業務に集中できる体制の構築を目指します。今回の診療報酬改定で、薬剤総合評価調整および退院時薬剤情報管理指導を要件とし、入院中の薬物治療管理の徹底と施設間情報連携の強化を図ることで病棟薬剤業務実施加算の上位加算が新設されました。これは薬剤師の病棟配置を進めることでさらなる医療安全の向上とシームレスな薬物治療管理の推進につながります。

第三の柱、薬剤師の充足ですが、機能別充足と地域偏在の解消に向け、処遇・就労環境の改善を進めます。都道府県病薬との連携を強化し、地域医療介護総合確保基金の活用を通じて薬剤師確保策を推進します。厚生労働省や病院団体との協働により、第9次医療計画や薬剤業務向上加算に対応した制度整備を進め、さらに、求人・求職システムの運用を通じて就職関連情報を可視化し、偏在解消のための新たな方策を策定して参ります。

これら3つの柱は、いずれも「医療の質の向上」という共通の目的に向かう取り組みです。薬剤師一人ひとりが専門性を磨き、職能を広げ、仲間とともに支え合うことで、患者中心の医療をより確かなものにしていく、その歩みを日病薬は都道府県病院薬剤師会とともに進めて参ります。引き続き、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。